

子どもの考える遊び

対象児：3歳児 ゆり組
作成者：坂本七海
作成日：2021.10.15

○ねらい 秋の自然物に興味を持ち、遊ぶことを楽しむ。



○保育の振り返り

ゆり組さんの友達が、お家からドングリを持って来てくれるので、みんなで遊べるように箱にマツボックリやドングリを入れて机に置いてみました。さっそく見つけた子ども達。どんな遊びが始まるかな、と見ていると、ドングリを手に取り、「中に何か入っとる！」と振るとカラカラと音をするのを発見しました。子ども達は何が入っているのか気になるようで、ドングリを割ろうとしていました。机でコンコンと叩き、「見て！たまごみたいに割りよる。」「踏んだら割れるんやない？」と、どうしたら割れるのか考えながら割り続けています。中にはままごとの包丁で切ろうとしている子もいました。ドングリはほとんど割れて、「ほらみて！実が入った！」と満足そうでしたが、「いっぱい（殻が）落ちてるね」「お掃除した方がいいかな？」と気付いた子がおり、保育者と話をし、小さいちりとりと一緒に掃除をしました。「手伝おうか？」ともう一人手伝ってくれる姿があり、片付けまで楽しんでいました。ままごと遊びに使ったり、転がしたりするかと思いましたが、ほとんど割っていたので、子どもの発想力や想像力、興味関心は保育者の予想とは違っていました。しかし、その行為（割る事）をやめさせるのではなく、ありのままを受け止めて寄り添うことの大切さがわかりました。（健康的な心と体、自然との関わり・生命尊重）